

「令和8年熊本地震」に伴う警察活動について

地震の概要

□ 発生日時

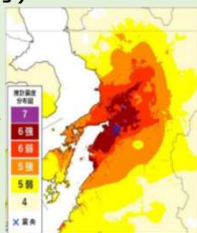
令和8年7月28日（火）午後4時27分頃

□ 発生場所

熊本県熊本地方

□ 地震の規模

最大震度7（熊本県宇城市及び氷川町）
マグニチュード7.1（暫定値）



出典：気象庁

□ 被害状況等（9月9日12:00時点）

○ 死者：36人

※ 直接死のみ。災害関連死は含まず

○ 調査中死体：2人

警察の体制

□ 警察庁

警察庁長官を長とする非常災害警備本部

□ 熊本県警察（約1,520人）

警察本部長を長とする総合災害対策本部

□ 各都府県警察からの特別派遣（最大時約900人）

○ 即応部隊

- ・ 広域緊急援助隊（警備部隊）
- ・ 広域緊急援助隊（交通部隊）
- ・ 広域警察航空隊
- ・ 機動警察通信隊

○ 一般部隊

- ・ 特別自動車警ら部隊（警戒・警ら）
- ・ 特別警備部隊（警戒・警ら）
- ・ 被災者支援部隊（要望聴取等）
- ・ 特別犯罪抑止部隊（防犯カメラ設置等）
- ・ 特別機動捜査部隊（捜査活動）

警察活動

救出救助（～8/2）

- 爆発が発生したイオンモール熊本や日本製紙八代工場等被害の大きい八代市・嘉島町等における救出・救助活動を実施（67人を救助）
- ヘリコプター搭載カメラによる被災状況等の情報収集を実施



イオンモール熊本における捜索

交通対策

- 九州縦貫自動車道等で物資輸送車両等を優先する交通規制を実施（～8/18）
- 関係省庁と連携し、物資の円滑な輸送のためのパトカー先導等の支援を実施（7/30及び8/2）
- 道路管理者と連携し、通行止め箇所に係る迂回路を設定
- 交通混雑等に対応するため、警察官による交通整理を実施
- 被災地に向かう一般車両の利用自粛に係る広報



交通規制の実施状況

防犯対策

- 機動隊・パトカーによる被災地の警戒・警ら
- 避難所等における相談対応・防犯指導
- 震災に便乗した犯罪等の被害防止広報
- 被災地における犯罪抑止を目的とした防犯カメラの設置

合計約950台を運用



パトカーによる警ら

取締り

- 震災に便乗した犯罪等の取締りの推進
- 被災地における犯罪検挙を目的とした捜査活動

死体調査活動等

- 御遺体の死因・身元を特定するための調査を実施

ネット情報収集

- SNS上でのデマ、偽救助要請等の偽情報・誤情報を調査

情報発信

- 警察庁HP、X（旧Twitter）等において、活動状況や防犯情報を発信

X（旧Twitter）による発信



警察による救出事案

7月29日午前、八代市内において倒壊した家屋から鹿児島県警察の広域緊急援助隊が救助



広域緊急援助隊による救出状況

警察による捜索事案

7月29日午前、氷川町内において、佐賀県警察の広域緊急援助隊が倒壊した家屋に取り残された住人を捜索



広域緊急援助隊による捜索状況

令和8年熊本地震への対応～救出・救助活動～

イオンモール熊本における救出・救助活動

- 安否不明者となっていたテナント従業員7名全員を発見・救出
- 警察犬も投入し、未把握の要救助者がいないかクリアサーチを消防・自衛隊とともに実施



日本製紙八代工場における救出・救助活動

- 安否不明者となっていた従業員9名全員を発見・救出



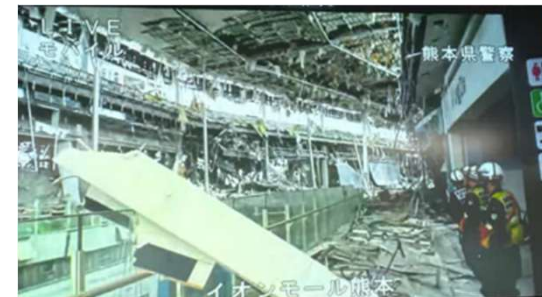
熊本県内における救助者数

熊本県内で67名の被災者を救出・救助



警察用航空機等を用いた情報収集

- 警察用航空機（ヘリ）に搭載されているカメラ等を用いて被災状況について情報収集



研究機関における取組

科学警察研究所において、以下のような災害対処も想定した研究を行っている。

研究例 1

NBC テロにおける被害状況把握の迅速化（R7～）

四足歩行ロボット、UGV、ドローンといった無人移動体と検知・採取機材を組み合わせて、遠隔での危険物検知や試料採取を可能とするテロ・災害対処手法を開発すると共に、NBC物質に特化したシミュレーション技術を新たに開発し、被害状況把握や避難誘導の最適化を行うことを目的とする研究。



研究例 2

大規模災害時等の身元確認に資する血縁関係推定法に関する研究（R8～）

大規模災害時等の迅速な身元確認に資することを目的として、身元不明者と血縁者候補が多数存在する場合に血縁関係の有無を一括して推定するための方法を開発する。本年度は、システムの根幹となるプログラムを作成し、シミュレーション等による性能評価を行う研究。

研究例 3

インターネットにおける誤情報・偽情報の拡散とその予防教育に関する研究（R7～）

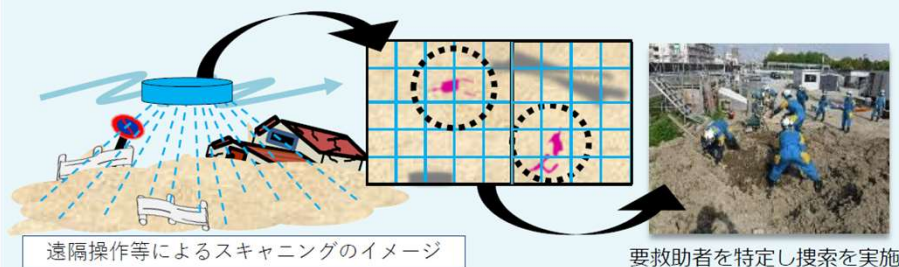
災害時を含め、誤情報・偽情報への接触実態とそれを拡散しようとする心理メカニズムを明らかにし、これらの知見から、一般市民に対する誤情報・偽情報の拡散防止教育や啓発活動に資することを目的とする研究。

他府省庁事業への参画（SBIR）

連結型トピック研究課題（消防庁と連携）

地中の埋設物や要救助者の特定等に係る技術

- ✓ 地中の埋没物を地表又は上空から識別
 - 地中の人型のシルエット、骨の検出
 - 土砂の水分量が影響しにくい
 - △呼吸の検出、体温の検出
- ✓ 大規模な現場で迅速に人が埋没している可能性の高い場所を特定
 - 自動・遠隔操作によるスキャンニング
 - スキャンニング結果の統合・解析による存在可能性の高い範囲の提示
 - 車両が入れない現場で使える小型・軽量の資機材



地下空間での救助実施に係る技術

- ✓ 地下内部構造を立体データ化し、安全ルートを確認
- ✓ 地盤の空洞や劣化箇所を把握
- ✓ 地下空間や崩壊等の危険がある建物の崩落の前兆を早期検出
- ✓ ロボットなどを活用し、地下空間や崩壊等の危険がある建物に進入する前に遠隔から要救助者を検索



「瓦礫・土砂中の生存者搜索のための放射熱探査ドローンと連携するヘビ型ロボットシステムの開発」
「地表・車両・ロボット・ドローン等を用いた要救助者の非接触遠隔探索技術の確立に向けた基礎検証」